

CLIPPEDIMAGE= JP411042124A

PAT-NO: JP411042124A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11042124 A

TITLE: DESK

PUBN-DATE: February 16, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKASHIMA, SHIGEYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KOKUYO CO LTD

N/A

APPL-NO: JP09200600

APPL-DATE: July 25, 1997

INT-CL_(IPC): A47B037/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable the work of placing a display device with a display device frame held in a different place from the original installed position of a desk main body by separating the desk main body from the display device frame.

SOLUTION: This desk 100 includes a desk main body 100A with a top plate 2 having a window 1 which allows viewing downward, a display device frame 5 formed separately from the desk main body 100A and supporting a display device DSP to be faced to the window 1, and a fastening mechanism FM by which the display device frame 5 is removably fixed in a predetermined position in space below the top plate 2.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

DESK

Patent Number: JP11042124
Publication date: 1999-02-16
Inventor(s): TAKASHIMA SHIGEYUKI
Applicant(s):: KOKUYO CO LTD
Requested Patent: ☐ JP11042124
Application JP19970200600 19970725
Priority Number(s):
IPC Classification: A47B37/00
EC Classification:
Equivalents: JP3089545B2

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable the work of placing a display device with a display device frame held in a different place from the original installed position of a desk main body by separating the desk main body from the display device frame.

SOLUTION: This desk 100 includes a desk main body 100A with a top plate 2 having a window 1 which allows viewing downward, a display device frame 5 formed separately from the desk main body 100A and supporting a display device DSP to be faced to the window 1, and a fastening mechanism FM by which the display device frame 5 is removably fixed in a predetermined position in space below the top plate 2.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成11年(1999)2月16日

505A

【特許請求の範囲】

【請求項1】下方を視認し得る窓を有する天板を備えてなる机本体と、この机本体とは別体に構成され前記窓に臨ませるべき表示装置を支持する表示装置架台と、この表示装置架台を天板下方の空間における所定位置に着脱可能に固定する止着機構とを具備してなることを特徴とする机。

【請求項2】下方を視認し得る窓を有する天板と、天板を支持する脚と、脚の後端部に配設される背面板と、表示装置を載置して天板下方の空間に配置される表示装置架台とを備えてなる机であって、表示装置架台を、天板下方の空間から天板の使用端側方向に引き出し可能に構成し、かつ表示装置の表示画面を窓方向に向けて止着機構を介して前記空間の所定位置に固定し、背面板を、開閉可能又は着脱可能に装着することを特徴とする机。

【請求項3】止着機構が、脚間に架設された構造部材と、表示装置架台の背面に埋設された一方の締結部材と、その一方の締結部材と螺合して構造部材に表示装置架台を固定する他方の締結部材とを備えてなることを特徴とする請求項2記載の机。

【請求項4】背面板を、その下端部分を回動可能に支持する回動機構を介して着脱可能に装着することを特徴とする請求項2記載の机。

【請求項5】回動機構が、背面板の下端部分の側面に形成した切欠部と、その切欠部に対応する位置の脚内面側に突設される枢支ピンとを備え、切欠部を枢支ピンに係合させた状態で前方向に回動させて装着することを特徴とする請求項4記載の机。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、語学実習室（ＬＬ教室）や学習塾等で使用される、天板下方にＣＲＴディスプレイ等の表示装置を配置するように構成した机に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、パーソナルコンピュータを使用する場合、少なくとも表示装置を机の天板上に載置することにより、天板の書類等を広げることのできる未使用領域の面積を、実質的に狭くしてしまうことがある。このような状況に鑑みて、表示装置を、天板下方に固定された一体型のディスプレイスタンドに載置するように構成された机が知られている。すなわち、このような机では、天板の所定位置に透明なガラス板で閉じられた窓を作成しておき、その窓を介してディスプレイスタンドに載置された表示装置の表示画面を見ることができるよう構成してある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、ディスプレイスタンドは、天板の下方に固定してあるために、表示

装置を載置する作業は、天板下に体を潜らせてする必要がある。つまり、表示装置を設置する場合、表示装置を天板下の狭い空間において持ち上げて、ディスプレイスタンド上に載置しなければならない。そのために、無理な姿勢での作業を強いられることとなり、作業者に過大な負担がかかるとともに作業性が低下するものであった。

【0004】本発明は、このような不具合を解消することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、このような目的を達成するために、次のような手段を講じたものである。すなわち、本発明に係る机は、表示装置を載置する表示装置架台を、窓を有する天板を備える机本体とは別体に構成し、天板下方の空間の所定位置に止着機構を介して着脱可能に固定する構成である。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明は、下方を視認し得る窓を有する天板を備えてなる机本体と、この机本体とは別体に構成され前記窓に臨ませるべき表示装置を支持する表示装置架台と、この表示装置架台を天板下方の空間における所定位置に着脱可能に固定する止着機構とを具備してなることを特徴とする机である。

【0007】このような構成のものであれば、表示装置架台を天板下方の空間とは別の場所において表示装置を表示装置架台に載置する作業ができるものである。したがって、作業者は、机本体の天板下方の狭い空間で作業する必要がなく、無理な作業姿勢を強いられることもなくなる。これにより、作業者の負担が軽減されるとともに、表示装置を載置後は表示装置架台を止着機構により固定するので、表示装置架台が机本体と別体であるにもかかわらず、表示装置の窓に対する位置ずれが生じることなく、使い勝手が向上する。さらに、表示装置架台が机本体とは別体になっているので、表示装置の大きさや種類が変わる場合には、表示装置架台を交換することにより、適切にそのような変更に対応することができる。

【0008】また、本発明は、下方を視認し得る窓を有する天板と、天板を支持する脚と、脚の後端部に配設される背面板と、表示装置を載置して天板下方の空間に配置される表示装置架台とを備えてなる机であって、表示装置架台を、天板下方の空間から天板の使用端側方向に引き出し可能に構成し、かつ表示装置の表示画面を窓方向に向けて止着機構を介して前記空間の所定位置に固定し、背面板を、開閉可能又は着脱可能に装着することを特徴とする机である。

【0009】このような構成のものであれば、表示装置架台を天板下方の空間から引き出した状態で表示装置を表示装置架台に載置する作業ができるものである。したがって、作業者は、天板や脚等で包囲された狭い空間で作業する必要がなく、無理な作業姿勢を強いられること

もなくなる。これにより、作業者の負担が軽減されるとともに、表示装置を載置後は表示装置架台を止着機構により固定するので、表示装置の窓に対する位置ずれが生じることなく、使い勝手が向上する。さらに背面板が開閉可能又は着脱可能であるので、表示装置架台を固定する際、表示装置への配線を行う際、及び表示装置の点検を行う際等の作業性を向上させることができる。

【0010】好ましい実施の一態様としては、止着機構が、脚間に架設された構造部材と、表示装置架台の背面に埋設された一方の締結部材と、その一方の締結部材と螺合して構造部材に表示装置架台を固定する他方の締結部材とを備えてなるものが好ましい。このような構成にすることにより、表示装置架台を背面板を取り外した状態で構造部材に固定でき、強固な固定を実現することができる。

【0011】また、背面板は、その下端部分を回動可能に支持する回動機構を介して着脱可能に装着するものが好ましい。さらに、この回動機構が、背面板の下端部分の側面に形成した切欠部と、その切欠部に対応する位置の脚内面側に突設される枢支ピンとを備え、切欠部を枢支ピンに係合させた状態で前方向に回動させて装着するものが好ましい。このような構成であれば、背面板を取り外すことなく、回動により背面板を少し開いた状態で表示装置架台の後側等を点検することができ、簡素な構成で、使い勝手のよいものが得られる。

【0012】

【実施例】以下、本発明の一実施例を、図1～7を参照して説明する。図1に示す機100は、下方を視認し得る窓1を有する天板2と、天板2を支持する脚3と、脚3の後端部間に配設される背面板4とを備える机本体100Aと、表示装置たるディスプレイDSPを載置して天板2下方の空間USに配置される机本体100Aとは別体の表示装置架台たるディスプレイスタンド5と、コンピュータ本体(図示しない)を載置するCPUスタンド6を備えてなる。

【0013】机本体100Aは、天板2が窓1を備えている以外、通常の事務用机等とほぼ同等の構成であってよい。この実施例の机本体100Aにあつては、天板2下面に引出しはなく、またいずれかの脚3の内側に引出しを有する袖部分もなく、天板2の下方はアジャスタ7付の左右の脚3の高さに略等しく、かつ天板2の面積と略同等の面積を有する空間になっている。天板2の中央より右寄り、かつ後ろ寄りつまり反使用端側寄りの位置に、窓1が設けてある。

【0014】窓1は、ディスプレイDSPの表示画面が完全に見えるだけの大きさにしてあり、反射防止処理された透明のガラス板8が内周部に設けられた段部1aに載置されて、天板2の上面と面一にして閉じられている。窓1を閉じるものとしては、ガラス板8の他に、プラスチック板等の良好な透光性を有する板材であればよ

く、このガラス板8も含め、表面が反射防止処理されているものが好ましいが、未処理のものであってもよい。また、偏光ガラス板であつてもよい。この窓1の右側には、CPUスタンド6に収納されるコンピュータ本体に接続されるキーボード及びマウス等の入力デバイスの配線を通すための、配線口9が設けてある。配線口9は、使用しない場合は配線キャップ9aで閉塞してある。この配線口9の位置は、CPUスタンド6を机本体100A内の空間に位置させた場合に、CPUスタンド6の後面から最短距離になる位置に設定してある。なお、CPUスタンド6の背面を机本体100Aの反使用端側に近接させるものでは、その背面位置に合わせて、配線口9を天板2の後縁近傍に設けるものであつてよい。

【0015】脚3の後端部すなわち反使用端側近傍には、ディスプレイスタンド5を固定するための構造部材10が架設してある。この実施例にあつては、構造部材10は、天板2近傍と脚3下端近傍との高さ位置に、左右の脚3間に架設してある。この構造部材10の固定位置は、背面板4を取り付けた際に後ろ側から見えない位置で、しかも背面板4の上下に隙間ができる位置である。それぞれの構造部材10には、ディスプレイスタンド5を固定する他方の締結部材たるボルト11bが挿入される貫通孔12が設けてある。下側の構造部材10のディスプレイスタンド5の取付位置に対応する部分には、例えば合成樹脂製のチャンネル部材からなるコードダクト13が取り付けられている。また、左右の脚3の下端近傍で、構造部材10よりも後側の位置には、背面板4を回動可能に支持する枢支ピン14が内側に向けて突設してある。この枢支ピン14は、背面板4を装着した際に、背面板4の後面が脚3の後端面と面一となるように配設してある。そして枢支ピン14に対応して、背面板4の上縁部分を固定するためのブラケット15が、天板2の後縁近傍の下面に固定してある。ブラケット15には、背面板4を固定するためのボルト11aが螺合するめねじ孔16が設けてある。

【0016】背面板4は、板金製で、上下左右に折り返し部4aが形成してある。その左右の折り返し部4aの下端には、枢支ピン14に対応して、切欠部4bが形成してある。この切欠部4bは、上端が半円形状をしており、枢支ピン14に係合した際に円滑に回動できるようにしてある。この切欠部4bと枢支ピン14とで回動機構RMが構成される。また、背面板4の上側の左右の隅部には、ブラケット15に対応してボルト11aが貫通する取付孔4cが設けてある。さらに、背面板4の上半部分には、貫通孔4dを多数設けて通気孔部4eが形成してある。なお、この実施例では、背面板4は着脱可能に装着されるものであるが、背面板を脚3間に固定するものであつてもよい。この場合、後述する止着機構は、机本体100Aの前側、つまり使用端2a側から作業できるように構成すればよい。

【0017】ディスプレイスタンド5は、ディスプレイDSPを、その表示画面を斜め上方前方に向けて載置できるように設定しており、天板2の使用端2a側方向に引き出すことが可能で、後述の止着機構FMで固定するまでの間、支持が不要な自立可能な構成となっている。その奥行き寸法は、天板2の奥行きの約1/2よりわずかに大きい程度にしてあるとともに、幅寸法はディスプレイDSPを余裕を持って載置できるように設定してある。このような奥行き寸法になっているので、ディスプレイスタンド5を机本体100Aの最も奥部分に固定した際に、ディスプレイスタンド5の前側に十分な下肢空間が形成できるものである。

【0018】具体的には、ディスプレイスタンド5は、左右の側板5aと、その側板5a間に架設されてディスプレイDSPの背面を支持する下傾斜板5bと、同様にしてディスプレイDSPの底面を支持する前傾斜板5cと、前傾斜板5cの上側に取り付けられてディスプレイDSPが前水平方向から見えないようにする目隠し板5dと、左右の側板5aに取り付けられて高さを調整するアジャスタ5eとを備えている。左右の側板5aの後端面の上下端近傍には、止着機構FMを構成する一方の締結部材であるインサートナット5fが埋設してある。このインサートナット5fにボルト11bを螺合して、ディスプレイスタンド5を机本体100Aに固定する。このインサートナット5fの位置は、構造部材10に穿設された貫通孔12の位置に合致するようにしてある。しかも、アジャスタ5eを備えているので、貫通孔12との位置合わせが微妙に調整できるものである。このインサートナット5fと構造部材10とボルト11bとで止着機構FMが構成される。これらの側板5a間に固定される下傾斜板5bと前傾斜板5cとは、下傾斜板5bの前縁と前傾斜板5cの後縁とが密着されて直交しており、前傾斜板5cが垂直位置から約30°程度前方に傾斜した位置に固定してある。また、下傾斜板5bの左右方向の略中央位置には、ディスプレイDSPの電源コード及び信号ケーブルを通すための導出開口5gが設けてある。この導出開口5gは、下側の構造部材10より上側に設けてあり、導出開口5gから導出したケーブル類が、下側の構造部材10の上に取り付けられたコードダクト13上に導きやすいようになっている。なお、止着機構FMは、上記したものに限られるものでなく、当該分野で広く使用されているものを適用することができる。

【0019】CPUスタンド6は、直方体に近い箱体で、左右の側板6aと、その左右の側板6aの上端部分を連結する上板6bと、コンピュータ本体を載置する下板6cと、アジャスタ6dとを備えている。このCPUスタンド6の奥行きは、天板2の奥行き寸法の約1/2の寸法で、左右の側板6aと上板6bと下板6cとで形成された収納空間SPに、コンピュータ本体を収納でき

るようになっている。左右の側板6aの外面には、フックFを取り付けるためのフック穴6eが設けてある。

【0020】このような構成において、ディスプレイDSPをディスプレイスタンド5に載置する作業について説明する。まず、ディスプレイスタンド5を机本体100Aの前側の作業しやすい広い場所に引き出しておく(図7)。引き出した位置でディスプレイスタンド5は自立しているので、作業者はディスプレイDSPを支持しているだけで作業が行える。次に、ディスプレイDSPをディスプレイスタンド5の上方から前傾斜板5c上まで移動させ、前傾斜板5cに接触させた状態で、ディスプレイDSPの背面から出ている電源コード及び信号ケーブルを下傾斜板5bの導出開口5gに挿通する。この後、ディスプレイDSPの背面が下傾斜板5bに密着する位置まで、ディスプレイDSPを前傾斜板5cに沿わせて移動させる。ディスプレイスタンド5は、ディスプレイDSPの幅より大きくしてあるので、ディスプレイDSPの表示画面の中央が前傾斜板5cの幅方向の略中央に一致するように位置の微調整を行えばよい。この場合、作業空間は、机本体100Aの天板2下方の空間USに比較して十分に広いので、無理な姿勢になることなく作業を完了することができる。

【0021】この後、ディスプレイスタンド5を机本体100Aの天板2下方の空間USに運び入れる。この時、背面板4は取り外しておく。そして、ディスプレイスタンド5の側板5aの背面が上下の構造部材10に密着する位置まで移動させ、インサートナット5fと貫通孔12とを一致させるように左右の位置及び高さ位置を調整する。高さ位置は、側板5aに取り付けられたアジャスタ5eを回動することにより容易に行うことができる。ディスプレイDSPから出ている電源コードと信号ケーブルとは、構造部材10に取り付けてあるコードダクト13に載置しておく。インサートナット5fと貫通孔12とが一致したところで、ボルト11bをインサートナット5fに螺合させて締め付けることにより、ディスプレイスタンド5を構造部材10に固定する。この固定作業は、背面板4を取り外した状態で行うので、狭い空間での作業と異なり容易に行うことができる。

【0022】一方、CPUスタンド6は、机本体100Aの手前でコンピュータ本体を下板6cに載置した後、ディスプレイスタンド5と脚3との間に形成された空間に移動させる。CPUスタンド6は、コンピュータ本体の前面部分に操作するスイッチやフロッピーディスクの挿入口があるため、その前面を天板2の前縁の位置に合わせ、ディスプレイスタンド5のように机本体100Aの奥まで運び入れない。この位置で、CPUスタンド6の後端は、配線口9のある位置にはほぼ一致する。したがって、配線キャップ9aを取り外し、天板2上の図示しないキーボード及びマウスからのケーブルを配線口9を介して天板2下まで導入し、コンピュータ本体に接続す

る。この時点で、コードダクト13上に載置してあった電源コードと信号ケーブルとをコンピュータ本体に接続する。以上のようにしてディスプレイDSP、コンピュータ本体の接続や配置が完了した後、背面板4を左右の脚3間に固定する。

【0023】背面板4は、後方からその切欠部4bを枢支ピン14に係合させた後、前方向に回動させてブラケット15に当接する位置まで移動させる。そして、取付孔4cにボルト11aを挿入し、ボルト11aをブラケット15のめねじ孔16に螺合して締め付け、背面板4を固定する。

【0024】このように、ディスプレイスタンド5を机本体100Aから離れた所に引き出しておき、その位置でディスプレイDSPを載置する作業を行うことができ、また固定するに際して、背面板4を取り外した状態で作業できるので、作業者の負担を軽減することができる。さらに、ディスプレイスタンド5を構造部材10に固定するので、ディスプレイスタンド5が引き出し（移動）可能であるにもかかわらず、ディスプレイDSPの位置ずれを確実に防止することができる。また、背面板4を取り外すことができるので、ディスプレイDSPとコンピュータ本体とを接続する接続作業も容易にすることができ、作業時間を短縮することができる。背面板4は、その切欠部4bを脚3の枢支ピン14に係合した後、前側に回動させることで固定できる状態になるので、着脱作業を短時間で行うことができる。さらに、背面板4を回動機構RMを介して脚3に固定しているので、例えば、ディスプレイDSPを保守点検する場合や、配線を追加する場合等の作業の際に、背面板4を後方に少し回動させてその上方のみを開いただけで作業を行うことができる。

【0025】使用時にあっては、前傾斜板5cがあるので、使用者の足が当接してもディスプレイスタンド5の位置がずれることがなく、窓1に対してディスプレイDSPの表示画面がずれて使い勝手が悪くなるといった不具合を防止することができる。このことは、学習塾等において、子供が机100を使用する場合、特に有効である。また、目隠し板5dがあるので、使用時に机100に向かって着座した状態で、天板2下方から漏洩するディスプレイDSPの光を確実に遮断することができる。これによって、不要な光がなくなるので、窓1を介してディスプレイDSPの表示画面を見ることに集中することができる。

【0026】なお、本発明は以上に説明した実施例に限定されるものではない。例えば、上記実施例では、背面板4を着脱可能に装着するものを説明したが、例えば、同一の大きさの2枚の板により背面板を構成し、左右の脚3に蝶番により蝶着して、開閉可能に装着するものであってもよい。このような背面板にあっても、上記実施例同様に、閉じた状態において、ボルトにて開かないよ

うにするものである。このように、開閉可能に構成することにより、背面板を取り外す必要がなくなるので、その装着が容易になる。また、1枚の背面板を、開いた際に天板2上方に停止できるように、開閉可能に装着するものであってもよい。

【0027】また、上記実施例では、ディスプレイスタンド5及びCPUスタンド6ともにアジャスタ5e、6d付のものを説明したが、アジャスタ5e、6dに代えてキャスタを備えるものであってもよい。特に、車輪をロックできるキャスタが好ましい。キャスタを備えるものでは、ディスプレイDSPを載置した後、所定の位置まで移動させるのにほとんど力を必要とせず、さらに作業者の負担を軽減することができる。

【0028】構造部材10としては、上記実施例では上下にのみ取り付けただが、このような水平方向のみの構造部材10に代えて、口の字状の枠構造の構造部材を使用するものであってもよい。このような枠構造の構造部材を使用することにより、天板2と脚3との連結構造を補強することができる。

【0029】ディスプレイスタンド5にあっては、CRT表示装置のように発熱を伴うものでは、放熱し易い構造のほうが好ましい場合がある。このような例では、ディスプレイスタンド5の側板5aを上記実施例の板状のものに代えて、例えばスチールパイプ製のフレームを採用するものであってもよい。このようにフレームを使用することにより、側面からの通気性が改善されるので、ディスプレイDSPの放熱効率を向上させることができる。

【0030】窓1の上には、フードHを取り付けてもよい。上記実施例のように反射防止処理されたガラス板を窓にはめ込んでいないものでは、天井の証明器具や部屋の窓等の景色が窓に映って、ディスプレイDSPの表示画面を見にくくすることがある。このような場合では、図2に想像線で示すような形状のフードHを装着し、天板2の半使用端側上方から来る光、及び側面方向から来る光を遮断するようにすればよい。このようなフードHは、着脱可能に装着すればよく、書類等を見る場合は取り外して置けばよい。使用時にあっては、使用者は、ディスプレイDSPの表示画面を斜め上方向から見下ろす状態であるので、フードH前側の開口部分は比較的小さなものとなり、フードHの高さが高くなるのを抑制することができる。

【0031】その他、各部の構成は図示例に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【0032】

【発明の効果】以上のように、本願の請求項1に係る発明によれば、机本体と表示装置架台とが別体であるので、表示装置架台を机本体の本来の設置位置とは別の場所に表示装置の載置作業を行うことができる。したがっ

て、狭陋な空間での作業とならないために、作業者の負担を軽減することができる。また、表示装置架台を止着機構により机本体に固定するので、表示装置架台に載置された表示装置の表示画面と天板の窓との相対位置がずれることを防止することができる。特に、例えば子供たちが使用する場合であっても、子供たちの足が頻繁に表示装置架台に衝突しても、天板の窓と表示装置架台に載置された表示装置の表示画面の相対位置がずれて、見にくくなるといった不具合を確実に防止することができる。使用勝手が悪くなることを有効に防止することができる。さらに、表示装置架台を机本体とは別体のものにしておけば、使用する表示装置の種類や大きさが変更されるような場合であっても、表示装置架台を交換するだけで対応することができ、机全体を交換する場合に比べてはるかに経済的である。また、机本体を共通化することができるので、種々の仕様のもをより簡単に製造することができ、また在庫管理の効率化も図り易くなる。

【0033】また、本願の請求項2に係る発明によれば、表示装置架台は引き出し可能であるので、表示装置架台を引き出した状態で表示装置を表示装置架台に載置することができ、作業者の負担を軽減することができる。また、止着機構により天板下方の空間の所定の位置に表示装置架台を固定するので、例えば使用中に使用者の下肢が表示装置架台に接触しても、それにより表示装置架台の位置がずれるのを防止することができる。その結果、天板の窓と表示装置架台に載置された表示装置の表示画面の相対位置がずれて、見にくくなるといった不具合を確実に防止することができる。さらに、背面板を

開閉可能又は着脱可能に装着するので、背面からの作業が可能になり、表示装置架台を所定の位置に固定したり、ケーブル類を接続する作業が容易になり、作業者の負担を軽減することができる。

【0034】さらに回動機構を介して背面板を着脱可能に装着するものでは、背面板を回動機構によりわずかに回動させて表示装置架台の後面を見ることができるので、表示装置の保守点検やケーブル類の配線状態を容易に確認することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す斜視図。

【図2】同実施例の側面断面図。

【図3】同実施例の背面板を取り外した状態の背面からの要部斜視図。

【図4】同実施例の回動機構を示す要部斜視図。

【図5】同実施例のディスプレイスタンドの斜視図。

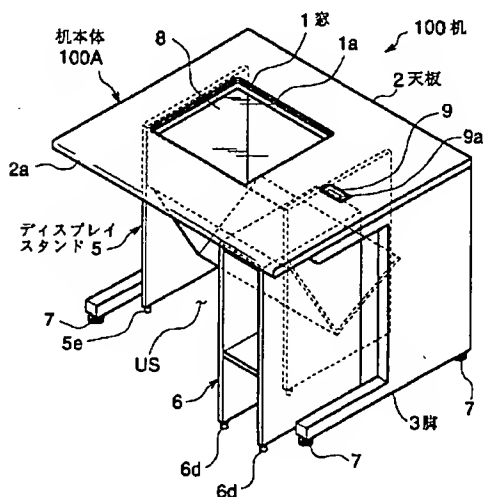
【図6】同実施例のCPUスタンドの斜視図。

【図7】同実施例のディスプレイスタンドを机本体から引き出した場合の斜視図。

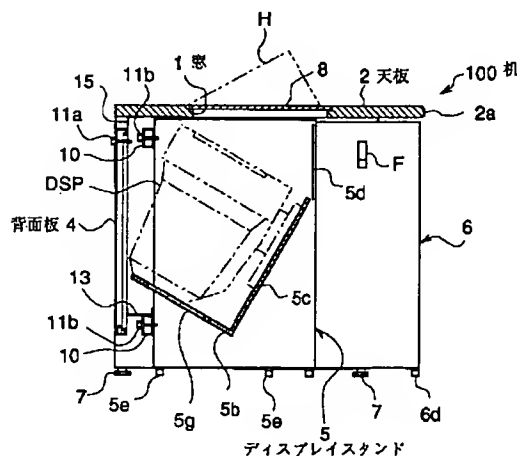
【符号の説明】

- 1…窓
- 2…天板
- 3…脚
- 4…背面板
- 5…ディスプレイスタンド
- 100A…机本体
- DSP…ディスプレイ
- FM…止着機構

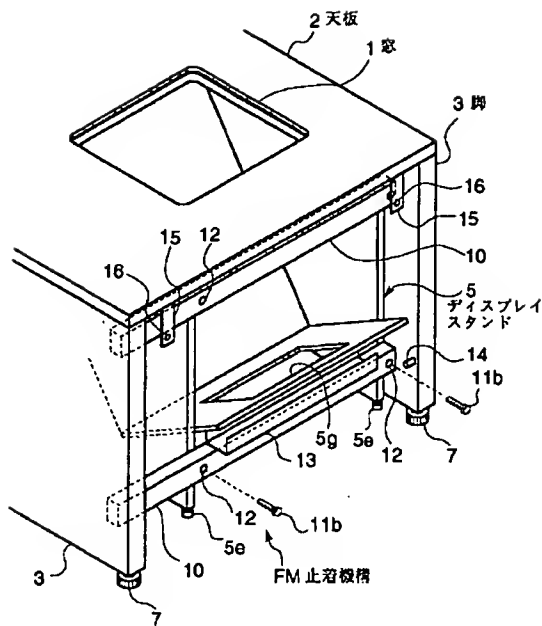
【図1】



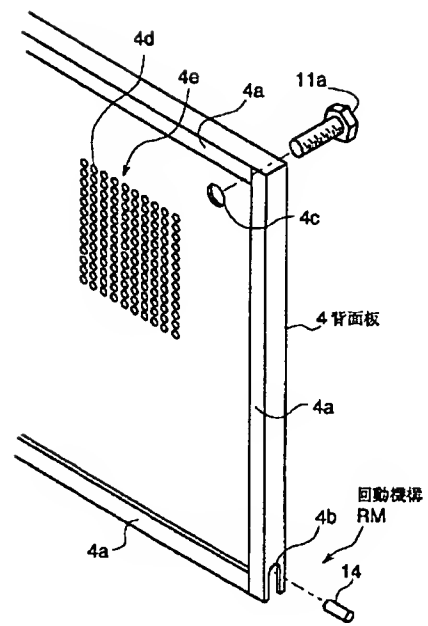
【図2】



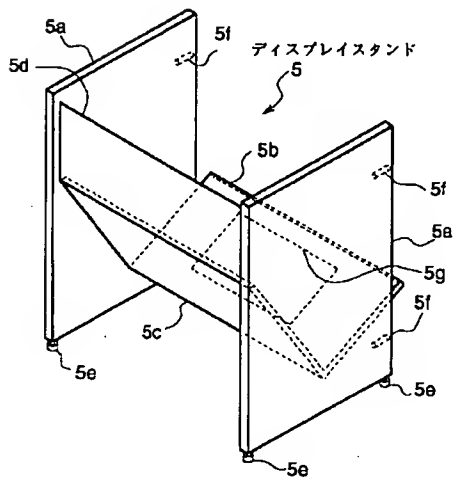
【図3】



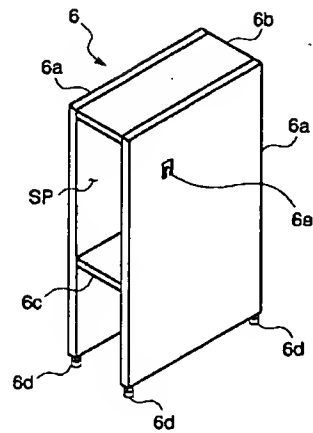
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

